

一 貧人見此珠 其心大歡喜の事

仰せに云はく、此珠とは一乘無価の宝珠なり、貧人とは下根の聲聞なり、総じては一切衆生なり。所詮末法に入りて此珠とは南無妙法蓮華經なり。貧人とは日本国の一切衆生なり。此の題目を唱へ奉る者は心大歡喜せり。されば見宝塔けんほうとうと云ふ見と此珠とは同じ事なり。所詮此珠とは我等衆生の一心なり、一念三千なり。此の經に値ひ奉る時、一念三千と開くを珠を見るとは云ふなり。此の珠は広く一切衆生の心法なり、此の珠は体中にある財用さいゆうなり。一心に三千具足の財を具足せり。此の珠を方便品にして諸法実相と説き、譬喩品には大白牛車ごしゃ・三草二木さんそうにもく・五百由旬ゆじゆんの宝塔、共に皆一珠の妙法蓮華經の宝珠なり。此の經文色心の実相歡喜を説けり。見此珠の見は色法なり、其心大と云ふは心法なり。色心共に歡喜なれば大歡喜と云ふなり。所詮此珠と云ふは我等衆生の心法なり。仍って一念三千の宝珠なり。所謂妙法蓮華經なり。今末法に入りて此の珠を顯はす事は日蓮等の類なり。所謂未曾有みそうの大曼荼羅まさこそ正しく一念三千の宝珠なれ。見の字は日本国の一切衆生、広くは一閻浮提いちえんぶだいの衆生なり。然りと雖も其心大歡喜と云ふ時は、日蓮が弟子檀那等の信者を指すなり。所詮煩惱即菩提ぼんのうそくぼだい・生死即涅槃しょうじそくねはんと体達するが其心大歡喜なり。されば我等衆生五百塵点の下種の珠を失ひて、五道六道に輪廻りんねし貧人となる。近くは三千塵点の下種を捨て備輪諸道せり。之に依って貧人と成る。今此の珠を釈尊に値ひ奉り見付け得て、本の如く取り得たり。此の故に心大歡喜せり。末法当今に於て妙法蓮華經の宝珠を受持し奉りて己心を見るに、十界互具・百界千如・一念三千の宝珠を分明ぶんみょうに具足せり。是併しかしながら末法の要法たる題目なり云云。